

トキソングロード  
噺家人生 山あり、谷あり

〔 第2回 〕

## 落語界の4つの階級とは？

✦ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya ✦

噺家は今、落語という職業が成り立って史上最多の人数がおります。その数なんと江戸落語、上方落語合わせておよそ1000人弱。

ちなみに昔はこの10分の1もいなかったそうです。これだけ増えたにもいろんな説があります。一つは落語人氣が復活してきていること。もう一つは不景気。

今や落語家になる人は大学卒業してなる人がほとんどなんです。大学卒業して自分のやりたい職業につけない、就活が上手くいかない、それなら自分の本当にやりたかったことをやろうという人が増えてるらしいです。

ですから景気が悪いと落語家志望が増え、景気が良いと落語家志望が減るのです！ いろんな意味で早く景気が良くなって欲しいものです（笑）。

そして落語界には4つの階級があります。下から見習い、前座、二ツ目、真打ち。

正確な数はわかりませんが、6割が真打ち、2割5分が二ツ目、前座・見習いが1割5分という逆ピラミッド。

僕の師匠、林家木久扇にも11人の弟子がいます。真打ち6人、二ツ目4人、前座1人。と真打ちが多いのです。

とにかく長生きの師匠方が多いのです。ちなみに昨年お亡くなりになりました。歌丸師匠の師匠はまだご健在で、93歳で未だに高座に上がり続けております落語界のシーラカンス、米丸師匠！

落語界には米丸師匠の様に生きるレジェンドがまだ落語しておりますので、是非寄席に足をお運びください！

階級によってできることも違いますが、見習いは芸名も付かず本名で約1年間師匠の身の回りことをして基礎を身に付けていきます。それが無事終わりますと前座に。芸名ももらいやつとスタートラインに感じた感じでしょうか。

この前座修業期間が約4年ぐらい。この時が一番キツイですね。これは次回お話しさせていただきます！

そしてこの修業期間が終わると二ツ目というポジションに上がります。

ちなみに僕はこの二ツ目です。

ここから一応一人前になりましたよって感じですよ。でも一応がついてきます（笑）。ですので、落語家の中で一番頑張らなくてはいけない期間でもあります。

真打ちになりますと、寄席で一番最後に出演するトリをとれ、弟子も取ることが出来ます。ここからは完全に一人前と言っても過言ではありません！

今回は前座修業について書かせて頂きます。お楽しみに！



## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

身長192cmと、落語協会一の高身長！

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中